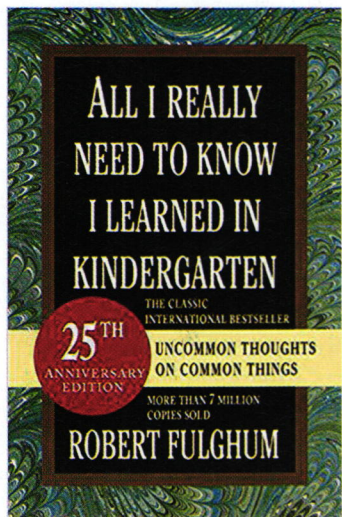


# ふてしこ

# 3

# '18 No.268

## 巡回通信誌



## 「告朔の餼羊」

名誉院長 西田 敬

年頭（或は月初め）の祝いに羊の生贄を捧げる、程度の意。今年の干支からして、間違っても、羊頭狗肉はあきまへん。年の変わり目の宮中儀礼の一つ。視告朔とも書くが、視の字を読まないのが通例。中国の制度を継受したもので、日本書紀の天武5年(676年)、9月の朔(1日)条に、雨降りて告朔せず、とあるのが文献上の初見である。

紹介する挿話は20世紀の超売っ子画家、Bernard Buffetの物語。仕事中毒とも評された程の多作家。燻んだ色調と直線的な図柄は、絵画fanでなくとも、疾くに御馴染。而も、中々の好男子で、元モデルの愛妻、Annabel夫人と並んだ写真が超一流のファッション誌である、Vogueの表紙を飾るに至っては、まるでparisien, parisienneの動く広告塔、恰好良

イったら無い。然し、好事魔多し。世紀末に突然、彼を襲った宿痾はParkinsonism。絵筆も持てぬ画家の為体を世に曝すに忍びず、the second millenniumも目前に迫った1999年10月4日、覚束ない手で、ポリ袋を被って自らの生涯を絶った。

矢庭に掲げた英文書籍、著者はRobert Fulghum、本のタイトルを逐語訳すれば「人生で必要な、全ての知識は幼稚園で学んだ」。

日本語版は池央耿(訳)で河出書房新社から出ている。その中で、歯に衣を着せぬ、時に辛口の批評で知られた山本夏彦が、男女の機微溢れる挿話を、感動的に、美しくも哀しい物語として紹介した。フランスの名優Charles Boyerと、その妻の癌闘病に纏わる話。長年、連れ添った伴侶に肝臓癌が判明。最愛の妻に如何して苛酷な病名を告げられよう歟。知らせない儘に、夜に日を継ぐ看病を続け、最期は自らの腕の中で看取った。そして…、遺された夫は、僅2日後に「最早、君の居ない此の世に棲み続ける気はしない」。そう云い遺して、secobarbitalの過剰摂取にて自らの生命の幕を閉じた。この胸を衝くような挿話が幼稚園児の生活を綴った御話の中で如何に使われて居るのか、原文を読まぬ身には、到底、知る由もない。

俗に、流眇を知らざるは無用の長物だが、女寡にや花が咲き、男寡には蛆が湧くなんて事を下世話には云う。どうせ碌でもない事許に時を費やし、馬齢を重ねた人生、せめて最期の幕引きには潔さを冀求する男の願望には際限がなく、又、洋の東西を問はない。



濟生会日田病院

(ホームページ <http://saiseikai.hita.oita.jp>)